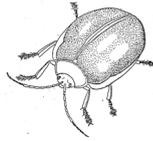


たんぽう



多可郡でマエジロシャチホコを確認

松尾隆人

笠形山中腹を縦断する林道笠形線の標高約 500 m 付近でライトトラップを行ったところマエジロシャチホコ *Notodonta albicosta* が飛来した。本種は氷ノ山など県北部の山地に広く産するものの、多可郡ではかなり珍しいものと思われるのでここに報告する。



図 多可町産マエジロシャチホコ。

1 ex. (写真), 兵庫県多可郡多可町八千代区大屋 Alt.500 m, 灯火, 29. VII. 2021, 筆者撮影

(Takahito MATSUO 多可郡多可町)

兵庫県新温泉町におけるハラアカコブカミキリの記録

松岡遥都・大生唯統

ハラアカコブカミキリ *Moechotypa diphysis* は日本国内においては対馬にのみ分布していたが、シイタケのほだ木の流通に伴って西日本各地へと侵入した国内外来種である。兵庫県下においては 1960 年代の伊丹市と 2009 年の姫路市からのみ報告されていたが(岡田, 2010), 2021 年に香美町で多数見つかった(小西, 2021)。筆者らは新温泉町において本種を確認したので報告する。

記録

1 ex., 兵庫県新温泉町浜坂秋葉台, 20. IV. 2021, 松岡遥都・高森 馳 発見, 松岡遥都 標本保管 (写真 1).



写真 1, 新温泉町産ハラアカコブカミキリ。

筆者の 1 人, 松岡が友人の家へ遊びに行く道中で発見した。

但馬地方は 1980 年代から継続的にカミキリムシ相が調査されており, これまでに 230 種ほどが知られている(例えば, 佐藤, 1996; 永幡, 1999; 小椋, 2019) が, 本種は小西(2021)まで報告がなかった。近年, 但馬地方へ侵入・定着したものである可能性が高い。隣接する鳥取県東部においては 2016 年に鳥取市(大生, 2017), 2018 年に岩美町(大生, 2018)と東への分布拡大が確認されており, 鳥取市では大幅な個体数の増加が確認されている(小椋, 2018)。兵庫県北部でも同様に分布拡大しているようであるため, 今後の動向を注視する必要がある。

○引用文献

- 大生唯統, 2017. 鳥取市にハラアカコブカミキリが侵入。ゆらぎあ, 35: 24 - 26.
- 大生唯統, 2018. ハラアカコブカミキリ岩美町へ侵入。ゆらぎあ, 36: 19.
- 小椋 隆, 2018. 2018 年ハラアカコブカミキリ大発生。ゆらぎあ, 36: 25.
- 小椋 隆, 2019. 兵庫県但馬地方のカミキリムシ。ゆらぎあ, 37: 23 - 36.
- 岡田浩資, 2010. ハラアカコブカミキリの姫路市安富町からの記録。きべりはむし, 32 (2): 40.
- 小西和夫, 2021. ハラアカコブカミキリ, 北但馬に定着か。きべりはむし, 44 (2): 46.
- 佐藤邦夫, 1996. IRATSUME に採集記録が発表された但馬のカミキリムシ。IRATSUME, 20: 93 - 109.
- 永幡嘉之, 1999. 但馬海岸のカミキリムシ。IRATSUME, 23: 1 - 4.

(Haruto MATSUOKA 新温泉町立浜坂北小学校)

(Yuito OBAE 鳥取県鳥取市)